

○二階俊博君 地方創生の目玉の一つに、リニア中央新幹線の早期着工と整備新幹線の加速が掲げられております。大都市交通網の整備はもとより、基本計画路線も、地方創生に役立つ幹線鉄道ネットワークの構築を忘れてはなりません。

地方創生回廊とはどういう考え方なのでしょうか。また、去る八月二日に自民党総務会で決定された、未来への投資を実現する経済対策案につきまして附帯決議事項がありますが、政府はきちんとこれを受けとめておるものと考えていますが、国土交通大臣、これら地方の切実な願いに、国土の均衡ある発展の観点からお答えを願いたいと思います。

○国土大臣(石井啓一君) 地方創生回廊の考え方についてお尋ねがございました。

国土交通省といたしましては、新幹線等の幹線鉄道ネットワークや高速道路網、国内航空ネットワークなどの高速交通網を活用し、三大都市圏を初めとする大都市圏と地方、また地方と地方とを結ぶ人の流れを拡大、創出することによって、各地域を活性化し、地方創生につなげていくものと考えております。

また、幹線鉄道ネットワークについてのお尋ねがございました。

幹線鉄道ネットワークにつきましては、地方創生に重要な役割を果たすものと認識をしております。

このため、国土交通省といたしましては、新幹線につきまして、既着工三区間を着実に整備することに加え、未着工区間である北陸新幹線敦賀—大阪間のルートを設定し、財源の確保を行うことで整備計画路線の確実な整備にめどを立てること、また、リニア中央新幹線について、現下の低金利状況を生かし、財政投融资の手法を活用することにより、大阪までの全線開業を最大八年間前倒しすることに取り組んでまいります。

そのような中、御指摘の八月の二日に自由民主党から提示をされました、未来への投資を実現する経済対策案等に関する附帯要望事項におきまして、基本計画路線も含め、地方創生に役立つ幹線鉄道ネットワークの構築に向けて取り組むべきであるとされているものと承知をしております。

国土交通省におきましては、こういった状況や御指摘の国土の均衡ある発展の観点も踏まえながら、平成二十九年度概算要求におきまして、今後、基本計画路線を含む幹線鉄道ネットワーク等のあり方の検討に必要となる、我が国の交通ネットワークの現状や効率的な整備手法等のさまざまな課題について調査する経費を要求しているところでありまして、この調査にしっかりと取り組んでまいりたいと存じます。